

## 平成27年度第2回志木市社会教育委員会議録

平成27年6月8日（月）

午後2時～3時30分

市役所201会議室

出席者 委員：齊藤奈都子、宮原正幸、竹前榮二、有馬隆江、  
一ノ倉達也、小笠原順子、安部卯内、星野久江  
(順不同、敬称略)

市：生涯学習課 松井課長 井上主幹 武井主査 松永主任

1 開 会 井上主幹

2 あいさつ 齊藤奈津子議長

3 協議事項

(1) 平成27年度志木市社会教育関係団体補助金について

- ・ 運営費補助金について（資料1）
- ・ 事業費補助金について（資料2）

### 事務局より説明

資料1の志木市社会教育関係団体運営費補助金の交付につきましては、算出根拠として基本助成金、地縁団体加入割助成金など、会員人数や活動内容を検討した算出根拠になっており、それをもとに補助金額を算出している。志木市連合婦人会、志木市PTA連合会、志木市子ども会育成連絡協議会など10団体に運営費補助金を交付予定している。

資料2の志木市社会教育関係団体事業費補助金の交付について、志木短歌会、志木吹奏楽団オール志木ウインド、志木子育てネットワークひろがる輪、志彩会など14団体による申請であり、補助金交付要綱に該当するものである。

(議長) 補助金の交付について、意見、質問があるか。交付としてよろしいか。

(委員) 異議なし。

## (2) 第三次志木市生涯学習推進計画（前期）素案について （資料3）

### 事務局より説明

第三次志木市生涯学習推進計画（前期）素案では、第1章「策定にあたって」では、生涯学習の背景にあるものとの整合性を図っていきます。

第2章「本市の生涯学習についての概況」では、市民アンケート調査を実施することで、市民ニーズをとらえていく。

第3章「生涯学習推進の基本方針」では、生涯学習の現状を踏まえ、「1いつでも、どこでも、だれでも学べるまちづくり 2学びをつなぐ、人をつなぐ 3地域の文化を未来につなげる」の3つの基本方針ですすめていく。

第4章として生涯学習施策の展開では、第3章の基本方針に基づいてどういう施策を展開していったらよいか、皆さんの意見や今後行う市民アンケートの結果を踏まえて変わることになりますが、現時点で考えてみますと、「1 いつでも、どこでも、だれでも学べるまちづくり」（1）わかりやすい情報提供として、生涯学習情報のメール配信、グループ・サークル情報を充実、生涯学習情報スペースの充実、ホームページなど活用また、パソコン等を使用しない人に配慮した情報提供を考えていく。（2）生涯にわたり学ぶことのできる環境づくり、さまざまな学習機会の提供、一つの案として市民公募企画講座では市民の皆様からこんな講座をやったらどうかを企画を募り、すぐにはできないが翌年度の計画にいれ前年度に予算化して翌年度に講座をすることが出来るようにすれば定例の講座を実施するよりも自由度が増すと考えて載せた。

（3）学習環境の充実については、これから、いろいろ調べて内容を検討していく。

2「学びをつなぐ、人をつなぐ」では（1）学んだことを生かしてまちづくり、学んだ成果を生かした活動をしたい方を支援する講座、ボランティア支援講座になりますが拡充していきたい。

市民のサークルやグループが主催する事業への支援。それぞれの担当者だけでは、やりづらいというときには行政が支援するという事業展開を考えている。

3「地域の文化を未来につなげる」では、（1）伝統文化を次世代に継承する事業として、文化体験道場や郷土芸能フェスティバルを引き続き行っていったらなと思っている。（2）として文化財の保護と活用したまちづくりでは、指定文化財を活用した事業。ここで今年度から田子山富士塚の修復工事が入りますので文化財を保存修復するというだけではなくていろいろ活用して生涯学習の事業を展開出来たら良いと考えている。

（議 長）今の説明で意見、質問があるか？

- (委員) 第二次志木市生涯学習推進計画をたたき台にするべきだと思う。また、計画にすると数値化していかなければならないと思う。
- (事務局) 計画にすると数値化しなければならない。埼玉県の指針は数値化していない。
- (委員) 社会教育委員の会議は、推進計画のために何回くらい会議を行うのか。
- (事務局) 推進計画策定のために、2～3回くらいを予定している。
- (委員) 推進会議とはどのような会議か。
- (事務局) 教育委員会の教育政策部長が会長となり、庁内の関係課長の会議である。
- (委員) 市民アンケートの発送は、どのようになるのか。
- (事務局) 前回の会議でお示ししたものを、より分かりやすくして5月下旬には発送を予定しております。
- (委員) 「地域の文化を未来につなげる」はこれまで計画にはなかったが、伝統文化を次世代に継承する事業として、文化体験道場や郷土芸能フェスティバルはしが支援していくことは良いと思う。
- (委員) 学社融合施設の取り組みなど他の市にないものを打ち出せるとよいと思う。また、人権研修会の際に関連した本を展示したが、関連図書が充実しておりよかった。また、図書館での取り組みなども紹介したほうがよい。
- (委員) 今までの計画の成果もアピールすべきではないか。
- (委員) 調べたいことがすぐ出てくる図書館であってほしい。司書をきちんと配置してほしい。
- (委員) 公民館の連携を充実させるべき、また、学習機会の提供だけでなく、もっと能動的な、受講した人が活動を続けられるような取り組みが必要ではないか。
- (事務局) いろは遊学館が中心となって3館の会議を行っている。
- (委員) ぜひ学んだ成果を生かす活動を具体的にすすめてほしい。

- (3) その他  
・特になし